

ニュージーランドから学ぶ 多文化共生、福祉と公益

ニュージーランドは世界初の8時間労働制、最低賃金制度、女性参政権、包括的社会保障制度を実現した社会政策の先進国です。その背景には多文化共生という難しい課題への挑戦があり、またそのことが環境政策、COVID-19対策などの公益政策に結び付いていることを皆さんと共有し、日本社会の課題と照らし合わせて考えたいと思います。

武田 真理子 教授

- 出張講義分野
公益学、福祉まちづくり、ニュージーランド
- 研究分野のキーワード
社会政策、コーディネーション
- 専門分野
社会政策、公益学



大学ではこんなことを研究しています

世界で最初に全国民対象の包括的な社会保障制度を構築したニュージーランドで進められている、官民協働による自立支援と地域福祉の推進のための社会保障制度改革と多様な主体を結びつけるコーディネーションに関する研究を行っています。また、地域人材育成、スクールソーシャルワーカーの養成に関する研究にも取り組んでいます。

先生からメッセージ

最近、よく全国の大学や教育関係者から「公益大ほど地域の協力が恵まれて地域に密着している大学はない」と言われます。これまで卒業生、教職員、そして地域の様々な方が大学づくりと地域の課題解決に取り組んできた成果が現れ始めているのだと感じています。ぜひ公益大と一緒に学び、専門的な知識を身につけたうえで、性別、年齢や職業などの立場を超えて、多様な人々の間の対話と連携・協働を推進できる人材に育ってほしいと思います。お待ちしております！

略歴 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得退学。修士(経済学)。
2001年4月より東北公益文科大学講師。准教授を経て、2014年4月より現職。
2020年4月より大学院公益学研究科長。
ニュージーランド研究所所長。日本ニュージーランド学会会長など。